

福島第一原子力発電所 3号機原子炉注水停止試験の実施ならびに原子炉格納容器の水位の状況について

< 参考資料 >
2022年6月1日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- 3号機については、2021年4月に実施した原子炉注水停止試験（7日間停止）により、主蒸気配管伸縮継手部付近で水位の低下傾向が緩やかになることを確認しており、主要な漏えいは当該高さ付近に存在すると考えておりますが、本年（2022年）6月14日から、昨年より長い期間（約3か月間を予定）での原子炉注水停止試験を行い、PCV水位低下途中での漏えい箇所の把握や長期注水停止時の影響確認を行う予定です。
- 注水停止により、原子炉圧力容器（以下、RPV）およびPCV温度の上昇やダスト濃度上昇の可能性があることから、以下対応を行いながら慎重に試験を実施してまいります。
 - ・ 管理目標温度(RPV底部温度65℃、PCV温度60℃)を設定し、当該温度以下の範囲で試験を実施
 - ・ 連続ダストモニタを設置（PCVガス管理システムHEPA上流、R/B1階）し、ダスト濃度の監視を行うと共にデータを取得。
 - ・ 定期的に短時間の注水（実績のある7日間から徐々に間隔を拡大）を行い、注水再開時の蒸気発生等の影響を確認
 - ・ PCVから気体のアウトリーク低減のため、試験前にPCVガス管理システムの排気流量を増加
- また、PCV水位が水位計L1および温度計T1の設置高さ(いずれもT.P.8264)を下回る場合には、パラメータの確認手段が限られることから、注水停止試験を終了し、注水を再開する予定です。
- なお、PCV水位については、現在、水位計L3（TP：10,064mm）とL2（TP：9,264mm）の間にあると評価しておりますが、本年3月16日に発生した福島県沖地震以降、緩やかな低下傾向を示していることを踏まえ、長期的な傾向を慎重に監視しているところです。

- 現在も、PCV水位（計算値）の低下傾向は継続しており、現時点において、L2高さ近傍まで水位が低下しているものと考えており、本日中（6月1日）にもL2に到達する可能性はありますが、原子炉注水は継続的に実施しており、PCV温度やガス管理設備ダストモニタ等のパラメータにも影響がないことから、燃料デブリの冷却についても問題ないと考えております。
- 引き続き、PCV水位およびプラントパラメータについて、慎重に監視してまいります。

< 3号機原子炉注水停止試験の実施スケジュール >

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
試験工程	▼6/14 炉注停止(予定) 注水停止期間 (定期的に短時間の注水を実施)		▼9/13 注水再開(予定) 注水再開後の監視期間	▼10/13 試験終了(予定)

【参考】 3号機PCV計算水位の傾向

